

令和3年度第1回太宰府市総合戦略推進委員会会議録
(まちづくりビジョン会議)

1 開会及び閉会に関する事項

- 1 日 時 令和3年5月31日(月)
午後1時00分開会
午後3時22分閉会
- 2 場 所 太宰府市役所3階 庁議室

2 委員出席者

委員長	八 尋 茂 雄
副委員長	八 尋 和 郎
最高顧問	森 田 朗
顧 問	福 留 大 士
委 員	松 澤 尚 史
委 員	柳 瀬 隆 志
委 員	小 川 祥 平
委 員	亀 崎 弘 記
委 員	青 山 博 秋
委 員	日下部 寛 行
委 員	高 尾 忠 志
委 員	大 西 良
委 員	石 戸 奈々子
委 員	松 岡 恭 子
委 員	施 光 恒
委 員	杉 春 華

3 執行部

市長部局：楠田市長・清水副市長・山浦総務部長・五味総務部理事・東谷観光
経済部長・佐藤経営企画課長・柴田管財課長・中島文化財副課長・
宮原企画政策係長

4 議題

- (1) 令和2年度・令和3年度の取組について
- (2) 第五次太宰府市総合計画の総括について
- (3) 公共施設等総合管理計画改訂(改定)について
- (4) 文化財保存活用地域計画について
- (5) 太宰府市職員人材育成基本方針について
- (6) 企業誘致プロジェクトチームの設置について
- (7) 本年度のスケジュールについて

5 概要

議題（1）令和2年度・令和3年度の取組について

<委員意見・提案>

- ◆情報発信に力を入れているが、高齢者をはじめ受け取り方を知らない人が多い。コロナワクチンの接種予約もスマホで簡単にできるため、高齢者もICTの基本的な部分を学べば手続きなど楽になることが多い。面倒くさい、学びたくないと思う人もいるとは思いますが、動機づけをして太宰府市の高齢者は進んでいるというところまで推進してほしい。
- ◆独自財源には限界があるので、国の予算や施策と同期を取った予算の確保の仕方、財源の確保の仕方を考え、色々な事業を展開していくことがいいのではないかと。
- ◆高齢者向けのデジタル教育として、総務省の事業で6月から全国1,800箇所でスマートフォンの教育プログラムを実施することになっているので、そういった取組を太宰府市として活用できるのではないかと。
- ◆ゼロカーボンシティ化やカーボンニュートラルの議論が非常に盛り上がっている。環境省では色々な補助金を用意し、カーボンニュートラル社会の実現に向けたインセンティブを出している。太宰府市でもこういった動きを加速させるといいのではないかと。
- ◆GIGAスクール構想のポイントはデジタル化にとどまらず、教育DXまで進めていくこと。例えばデータ活用等のところまで進み、太宰府市から先進的な事例を出してもらえることを願っている。
- ◆今まで都市はにぎわいをどう作るかなど、密になることを求められてまちづくりが行われた。ただコロナをきっかけにデジタルとリアルのハイブリットな都市の作り方にならないといけないと思う。密と疎、分散と集積は対立軸だったが、テクノロジーの力を使うことで両立・共存できるのではないかとと思うので、私自身も模索している。
- ◆夜のブランディングのために色々行ってきたが、イベント等で集中して行う時期でも協力してくれる人があまりいない。多くのお店が協力して夜も開けるようになってほしい。
- ◆まちの魅力に関しては、移住してきた人が一番魅力をわかっている。地域の人は実は魅力をわかっていないので、移住してきた人たちが何を魅力に感じて移住してきたのかとそなたちがどこに行っているのかがヒントになる。

議題（2）第五次太宰府市総合計画の総括について

<委員意見・提案>

- ◆市長・市議会議員の任期が4年であるため、総合計画も4年区切りのほうが整合性が取れるのではないかと。
- ◆10年間の総括をすることが大切だが、それを文字にするとスピード感がなさすぎて陳腐化されてしまう。そういう点は今後の事業の回し方として工夫すべき。
- ◆検証することは必要だが、内容が具体的になればなるほど、内容が細分化されて小さな数字を扱うような感じになりがち。それだけでは全体に流れるスピリットが見えにくくなってしまふ。構えは大きく、スピリットを大きく描いてほしい。
- ◆コロナで先を見据えるのが困難であるため、総括に時間をかけることはいいと思うが、

事業評価の評価項目に市民の目線を入れるべきだと思う。市民アンケートを総括の中に入れ込んでもいいのではないかな。

- ◆総合計画は作成しないとしても、基礎調査は必要だと考える。市民の悩みや考え、発展の契機を考えるうえで必要になる。
- ◆計画を作成するためには調査が大切。新たに調査することも大切だが、既存のデータを精査していくことも必要。
- ◆子どもたちの声を拾うようなアンケートはあまり行われていないので、アンケートをする際には、子どもたちの声も拾っていただき、それを政策に活かしてほしい。

議題（3）公共施設等総合管理計画改訂（改定）について

<委員意見・提案>

- ◆公共施設総合管理と文化財の保存活用について出所は違うと思うが、横断的に考えることはできないか。広い意味で太宰府の社会資産を無駄にしない、活用するんだという視点で市民の関心・子供世代の関心と呼ぶようなもう1つ違う仕組みがあってもいい。
- ◆コロナ禍で観光系の話は止まっているが、公園等の開放的な空間を民間の力を活用していこうという話は全国的に動いている。この3年が勝負で、事業者もやりたいところをやって、事業者の手が足りなくなっているのを早めに動いたほうがいい。
- ◆民間の意見を聞く前に行政が計画を立てて、公募をかけるのが一番失敗するパターン。必ず民間の意見を並行して聞きながら、どこまで行政がやれば手を挙げてくれるのか確かめながら、調査予算を国の補助金を上手にとってやればいい。

議題（4）文化財保存活用地域計画について

<委員意見・提案>

- ◆隣接自治体との連携も含め、広い範囲での文化財の保存活用を考える必要がある。
- ◆観光客や太宰府のことが好きな人など、市民以外の人にも文化財の保存活用に貢献できる仕組みを考える必要がある。
- ◆16%ある公有地の夜間照明を演出することにより、夜の観光や市民にとっても生活の中で文化財を楽しむということができるようになると思うので、夜間景観について視点を少し取り入れてほしい。
- ◆面白い学びや体験を市民の中で起こせば、それが保存というマインドにつながる。知らないのに保存していこうというのは難しい気がする。オンラインの活用なども含めて全体的に進めていけたら。

議題（5）太宰府市職員人材育成基本方針について

<委員意見・提案>

- ◆「地域活動の推進（人事評価への記載）」について、職員は公と私で明確に分けられるべきであるため、プライベートの私の時間に評価を与えるのは極めて慎重にならなくてはならない。人事評価ではなく、表彰制度で別途行うのが適切だと考える。
- ◆市民と自治体をつなぐ中間的なポジションがあったほうがいいと思う。自治体職員は

どうしても議会や庁内の話で内向きになりがちなので、内向きの事情を整理する人と、外の市民とつないでくれる自由な人の二人三脚で事業ができるとプロジェクトも円滑に進めるのではないかと思う。ただ、専門的な人材の確保は難しいため、週に1日や2日など兼業できるような形で雇用できると受けやすいと思う。

議題（6）企業誘致プロジェクトチームの設置について

<委員意見・提案>

- ◆働き方を考えるときに、共通してみられる傾向として職住近接になるのではないかとされている。太宰府に企業を構えるときに、どのような住環境であるかがセットで評価されるようになる。そのため、太宰府市の土地利用をどのように計画するかが企業誘致に絡んでくる。
- ◆住む場所を選ぶときには、意識の高い人であればあるほど教育環境のレベルが選択の条件になる。そのため教育環境のICT化のような話は企業誘致にとっても非常に重要であり、長期的な目線で見るとそのようなことも含めて総合的に議論する必要がある。
- ◆リモートオフィスやサテライトオフィスを呼ぶのであればターゲットは福岡市の企業になると思う。
- ◆補助金も大切だが、場所はどこがあるのかという情報が非常に重要。ピンポイントの物件を示せないと話は流れてしまうので準備してほしい。